

### 【第3部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
西大寺	<p><b>地産地消を広めたい！！</b></p> <p>環境問題が悪化していく中で何か私達にできることはないかと考えたとき、身近な取組として、「地産地消」のものをもっと買うことができないかと思った。実際に「地産地消」を行っている店舗にインタビューをし、工夫点や現状を聞き、生産者や我々消費者にも多くのメリットがあり、環境にも良いことが分かった。若い世代の人達にももっとこの魅力を知ってもらい、広めていきたい。</p>
岡山工業	<p><b>地域とつながれ ～ものづくりを通じた地域貢献活動～</b></p> <p>私達は、県総合グラウンドの利便性を高めるため、ベンチの製作・寄贈を行っている。資材は同じSDGsのゴールを掲げている県内企業と連携を図り、提供してもらった。活動をスムーズに行うため、グループとチームの違いを理解し、真のチームになるためパフォーマンスカーブ（チーム成長曲線）やワークショップを通してその考え方を学んだ。またSDGsについても学習し、それらを活かして活動している。</p>
岡山御津	<p><b>御津ライオンズによる、御津獅子舞のための継承プロジェクト</b></p> <p>岡山市北区の北部の伝統として残っている獅子舞。疫病や災いから人々を守り、農業の繁栄も支えてくれている。御津の魂として、現在も獅子舞団体が活動しているのだが、後継者不足や若い世代への認知度の低さなどで獅子舞の魂が正しく継承されにくくなっている。その状況を打開するために、岡山御津高校の生徒が立ち上がり、若い世代への普及活動を自ら考え、企画し、実践してきた。その成果を伝える。</p>
倉敷古城池	<p><b>干潟にハマって考えた ～児島の海岸調査から社会をみる～</b></p> <p>KT（総合的な探究の時間）の理学・環境チームは、みずしま財団や地域の方の協力のもと、児島の通生海岸の生物と海ゴミの調査を月一回行っている。この干潟には貴重な生物が見られる一方で、流れ着いたプラスチックゴミも多数存在する。ゴミから生じたマイクロプラスチックもたくさん採取されるが、その中には稲作で用いる肥料のかすが目立つ。私達は海岸から社会が抱える問題に気づき、新たな探究へと進んでいる。</p>
倉敷商業	<p><b>地域とlink! 地域をcreate! ～倉商観光 PBL in 倉敷美観地区～</b></p> <p>地域とつながり、地域をつくる。倉敷美観地区を中心に展開するプロジェクトを紹介する。チーム倉商として、課題研究「倉商AAA（観光ガイド）」、「地域経済探究（“倉敷 show たいむ”）」、繊維製品PR「倉商ツムグプロジェクト」、書道部「倉書プロジェクト」の4プロジェクトに取り組む。地域の商業高校ならではの観光PBLを通して、学校と地域のつながり、地域と自分のつながり、何を知り、何を学んだのかを発表する。</p>
津山東	<p><b>中山間地域で活かす高校生のチカラ ～地域課題を自分事として探究～</b></p> <p>高齢化・過疎化が進む県北部の中山間地域等において、地域の抱える課題を解決するために様々な取組がなされている中、高校生のチカラ（斬新な発想、世代間をつなぐ力、行動力など）によって、持続可能な地域社会づくりを目指すことに取り組んだ。実際に現地に赴いて聞いたことや感じ取ったことを踏まえ、見いだした課題を自分事と捉えて、対話と修正を重ねながら解決策を提案していく探究活動について紹介する。</p>

【第3部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
津 山 工 業	<p><b>地域と連携・協働した「おもいやりのものづくり」 ～地域の課題解決を目指して～</b></p> <p>私達は、全国的に問題となっている放置竹林に注目し、その課題解決に向けた活動を行っている。私達の強みである「ものづくり」を生かし、伐採された竹資源の有効活用に取り組む。地域と連携・協働した環境改善の活動を通して、「おもいやりのものづくり」で地域の課題解決を目指す。</p>
津 山 商 業	<p><b>真庭市の観光</b></p> <p>真庭市には蒜山高原や湯原温泉など、地域ごとに有名な観光地がある。しかし、よく見ると地域により大きな差があるように思える。そこで、私達は、久世・勝山地域に着目し、調査・研究を進めることにした。この地域には、お雛祭り、秋祭りと地域の文化を代表する祭りがある。これらの祭りは、春・秋を代表する祭りであるが、その他の季節においても賑わいを創出したいと考えるに至った。私達が考えるこれからの観光を報告する。</p>
高 梁 城 南	<p><b>「JonaCafe」を中心とした地域創生人材の育成 ～JonaCafe を通じて学んだ10のこと～</b></p> <p>何のためにカフェをやるのかという問いに「カフェを通じて学校や地域のことを知ってもらい、地域を盛り上げたい」という共通の目標の上で活動した。季節ごとのメニュー開発や、地域の団体、地元小学校などとも連携し、地域のPRにカフェを通じて関わってきた。生徒たちが感じた集客の難しさや地域を魅力的にPRする商品開発など、運営する上での苦労や、生徒自身が成長したポイントを10個のエッセンスにまとめて発表する。</p>